

道徳学習指導案

授業日時 平成 30 年 8 月 27 日(月)第 1 校時
授業学級 1 年 D 組 男子 19 名 女子 20 名 計 39 名
授業会場 1 年 D 組(305)教室
授業者 _____
指導教員 _____
指導者 _____

1、主題名 『約束』

(内容項目 D・(14)家族愛、家庭生活の充実 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。)

2、主題設定の理由

《このような生徒に》

- 校外学習の係活動に積極的に取り組んだり、掃除のときに協力して机を運んだり、友人が悲しんでいる姿を見て慰めてあげたり、仲間のためにすべき行動を実行できる生徒。
- 教室に担任の先生が虫を連れてきたとき、その小さな命に感動し関心を持つことのできる生徒。
- 友人が仕事を終えた際に、「お疲れ様です。」と相手をいたわる声掛けを行うことのできる生徒。

《このような手立てで》

- 導入部で、教師が自身の両親に対し冷たい態度をとってしまった経験を話すことで、親に対し反抗的な態度をとってしまった自分の経験について振り返ることができるようにする。
- 教材である作品の中で、主人公と母親が抱き合い涙する場面について、その二人の心情を想像するよう促すことで、親子が互いに対しどんな思いを持っているのかについて考えることができるようにする。
- 設定が明確ではなく、台詞がほとんどない、絵が中心に進められる物語を教材として提示することで、物語に感情移入しやすく、幅広く想像することができるようにする。

《このような姿を期待する》

- 様々な理由から親に対し反抗してしまう自分の弱さに向き合うことができる。
- 子供を思う父母の愛情のありがたみに気付くことができる。

3、本時案

(1) 主眼

アニメ作品「約束」を見て親子について考える場面で、親に冷たい態度をしてしまった自身の経験を思い出したり、アニメの中の母と息子の思いについて考えた意見を発表したりすることを通して、親に反抗してしまう自分の弱さに向き合い、父母の愛情のありがたみに気付くことができる。

(2) 指導上の留意点

- ・教材を視聴する前に注意喚起をすることで、複雑な家庭環境を持つ生徒が、教材を見るうえで心構えをもって視聴できるようにする。

(3) 展開

過程	学習内容【学習形態】	予想される生徒の反応や意識(◎)	支援(・) 評価	時間
導入	1 教師が母親に反抗的な態度をとってしまった経験を聞く。 【全体】	◎親が勉強しろっていうからつい強い口調で言い返してしまったことがあるな。 ◎そういえば親の呼び方が昔と変わったな。 ◎なんだか最近いちいち親の言うことに苛ついてしまったりするんだよな。	・教師の経験を話すことで、「親に反抗的な態度をとった経験」についてイメージできるようにする。 ・教師の経験に関して、「自分にも似た経験が無かったか」と問うことで、過去の自分を振り返り、似たような体験を想起できるようにする。	5
展開	2 教材の映像を視聴し、主人公が母親に対してとった態度の理由を考え、発表する。 【個人・全体】	補助発問：主人公が、母親に対し反抗する態度をとってしまったのはなぜだろう。 ◎どんな作品を見るんだろう。 ◎鉄拳のパラパラアニメなら、見たことがあるぞ。 ◎なんで主人公は母親に反抗してしまったのかな。	・教材を視聴する前に、視聴するうちにどうしても辛くなったら先生に言うようにと注意喚起をすることで、複雑な家庭環境を持つ生徒が、辛くなることを覚悟して視聴できるようにする。	20

	3 主人公と母親が泣いた理由を考え、発表する。 【個人・全体】	◎母親が授業参観に来なかったり、食事を作ってもらえなかったり、母親から愛されていることを十分に実感できなかったからじゃないかな。 ◎お母さんのことが好きだったからこそ、かまってもらえないさみしさを、お母さんにぶつけてしまったんじゃないかな。 ◎お父さんの死因を作ってしまった自分のことが許せず、どうしようもない感情をお母さんにぶつけるしかなかったからかな。 ◎母親のやさしさが逆に辛くて、反発してしまったんじゃないかな。	・「主人公が母親に冷たい態度をとった理由を考えながら見てみよう」と言うことから、「約束」を視聴することで、主人公の気持ちを追いながら教材を見ることができる。 ・視聴を終えた時点で、主人公が母親に取った態度の理由を考え、発表するように促すことで、やり場のない不満を母親にぶつける主人公の気持ちを考え、深めることができるようにする。 ・教材の物語の場面ごとのイラストをプリントにまとめたものを配布することで、母親や主人公が泣いた理由を想像できるようにする。	20
終末	4 本時を振り返り、自分の学びを発表する。 【個人・全体】	◎息子のことを愛していたからこそ一生懸命働いていたのに、それが伝わらず、息子が心を開いてくれない悲しさから、泣いてしまったんだと思う。 ◎息子が自分に反発してしまうのは、自分が息子に十分に愛を注げなかったからではないかと思ったからだと思う。 ◎お母さんの涙を見て、お母さんが主人公のことを思って苦しんでいたことを知り、自分の行動がいかに母を苦しめていたかに気づき、申し訳なさから泣いてしまったんだと思う。 ◎父親と、お母さんを大切にするという約束をしていたことを思い出し、母を大切にせず約束を果たせない自分に気付いたからだと思う。	・「主人公と母親が抱き合う場面で、母親が泣いたのはなぜだろうか」と問うことで、母親が子を思う思いの強さについて考えることができるようにする。 ・「(同じ場面で) 主人公が泣いたのはなぜだろうか」と問うことで、母親の涙に母親からの思いを感じた主人公の心情に着目できるようにする。 ・中心発問について考えた内容を発表する場を設けることで、主人公と母親の思いについて考えを深めることができるようにする。 ・話し合いを終えた後で、もう一度この作品を視聴することで、この作品の登場人物の内面を深く考えながら作品を鑑賞できるようにする。	5

「約束」

主人公が母親に対し冷たい態度をとったのはなぜだろう。

- ・母親からの愛を実感できなかったから
- ・母にかまってもらいたいさみしさから
- ・父の死因を作った自分が許せなかったから
- ・母のやさしさが辛かったから

母が泣いたのはなぜだろう。主人公が泣いたのはなぜだろう。

- 母：息子への思いが伝わらない悲しさから
- 母：息子への愛が足りなかったのだと思ったから
- 主：母の苦しみに気付いたから
- 主：父との約束を果たせていない自分に気付いたから